

平成23・24年度  
文部科学省・熊本県教育委員会指定 芦北町教育委員会委嘱

## 子どもたちの自立支援事業研究推進校 研究紀要

### 研究主題

「不登校の予防・解消につながる児童・生徒のよりよい人間関係づくり」



小中交流：読み聞かせ



小中交流：タマネギ収穫

- 1 期日 平成24年11月29日（木）
- 2 会場 芦北町立佐敷中学校（公開授業・全体会）  
芦北町立佐敷小学校（公開授業）
- 3 主催 文部科学省  
熊本県教育委員会、芦北町教育委員会  
芦北町立佐敷中学校、芦北町立佐敷小学校、芦北町立吉尾小学校

## はじめに

今日の教育課題として、子ども同士の人間関係の希薄さが大きく取り上げられています。

情報機器の発達により、携帯電話、特にメールという道具を駆使し、バーチャルな世界での歪んだ価値観が子どもたちの中で独自に構築されることも少なくありません。それが要因と思われるいじめ、不登校、最悪の事態である自殺等が常にマスコミを通して各家庭に流されています。今では、これらの問題は人ごとではなく、どの学校、どの家庭においても、常に起こりうることとして認識しています。これらの予防・問題解決に向けて学校を中心として様々な手立てを講じてきていますが、効果的な取組が十分なされているとは言い難い現実があります。その背景には、子ども同士の人間関係の希薄さだけではなく、教師と子どもとの関わり、また、学年や校種を越えた関わり、さらには教師同士の関わりが必要であり、単一の学校の問題として捉えるのではなく、「地域の子どもは地域で育てる」という9年間を見通した実践的な取組が求められています。

佐敷中学校区（佐敷中学校、佐敷小学校、吉尾小学校）では、文部科学省、熊本県教育委員会の指定を受け「子どもたちの自立支援事業研究指定校」として、平成23・24年度の2年間、小・中学校合同で研究を進めてきました。研究推進に当たっては、子どもたちの「よりよい人間関係」の構築に着目し、冒頭述べました課題の要因と思われる「人間関係の基礎」の育成に視点をあてて、常に子どもの姿をもとに分析検討し、横断的系統的な取組を進めてきました。例えば、本町では、中学校の不登校生徒を中心として、「不登校児童生徒体験活動」を以前にも増して充実させて取り組んできました。教育委員会が学校と一体となって、校種の枠を越え、学校の不登校解消のために、主任児童委員、いじめ不登校アドバイザー等を中心に積極的に関わるができる体験活動を企画・運営してきました。本年度は、さらに幼稚園を活動の拠点として、新たな人間関係の醸成に役立つ場を拡大して取り組んで来たところです。

本研究は、まだスタートラインに立ったに過ぎず、その都度分析を行いながら、今後も継続的な取組が必要になります。また、常に子どもの実態の変容を客観的に我々大人がしっかり捉えながら、柔軟に対応していくことが重要です。課題は、未だに多く残っているのが現状ですが、本日はこれからさらに本研究が一步でも進むとともに、今後の取組の方向性を示す光として、皆様の忌憚のない御意見、御指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、研究を推進するにあたり、温かく御支援・御指導いただきました熊本県教育委員会、御協力いただきました関係各位の皆様にご心より感謝と御礼を申し上げ挨拶と致します。

芦北町教育委員会  
教育長 竹浦 裕道

## I 研究の概要

### 1 研究主題

不登校の予防・解消につながる児童・生徒のよりよい人間関係づくり

研究主題「よりよい人間関係づくり」について

「よりよい人間関係」とは、児童・生徒が自己有用感を高め、周囲の人々が持ついろいろな価値観を受け入れて、人と関わろうとする心情・態度・技能を備え、お互いに高め合っていこうとする関係としてとらえる。

### 2 主題設定の理由

#### (1) 今日の教育的課題から

国立教育政策研究所の生徒指導研究センターから平成22年に出された、「いじめ追跡調査 2007-2009 いじめ Q&A」によると、最も代表的な『仲間はずれ・無視・陰口』といった、いじめなどの不登校の要因とされる問題行動について、小学校中高学年から中学校1年生にかけて多発していることが指摘されている。新聞・ニュース等でも、よりよい人間関係が築けていないばかりにこのような問題が起こっていると報道されている。

また、文部科学省から平成22年度に出された、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果によると、不登校児童生徒の割合は、小学校1年生から6年生までに徐々に増えるが、小学校6年生と中学校1年生では不登校の数が約3倍に急増している。以上のことから不登校の予防・解消も必要であり、小学校と中学校の滑らかな連携強化が不可欠であると考えられる。

#### (2) 学習指導要領から

中学校学習指導要領総則編では、「家庭や地域社会との連携及び学校相互の連携や交流」（第3章第5節14）について、次のように示されている。

学校がその目的を達成するため、地域や学校の実態に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること。また、中学校間や小学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること。

教育課程編成の工夫により、小中間での交流を推進する必要がある。

#### (3) 地域及び児童生徒の実態から

佐敷中学校区は、現在、佐敷小学校と吉尾小学校の2小学校と1中学校で構成されている。佐敷小学校は本年度から計石小学校を統合し、14学級で児童数は289名である。特別支援学級や芦北支援学校などとの交流に力をいれ、それらの交流を通し、相手を温かく受け入れる雰囲気が出てきている。吉尾小学校は3学級で、児童数は9名である。3学年から6学年までは複式授業を行っており、子どもたちは、日頃から異年齢集団の中で学校生活を送っている。素朴で素直な雰囲気の児童が多い。佐敷中学校は、8学級で生徒数は179名である。純粋な

生徒が多く、穏やかな雰囲気である。校区全体の課題として、人間関係が固定化されやすいという状況が見られる。

また、平成23年度11月に佐敷中学校で実施した hyper-QU から、「学級生活での不安傾向が強い生徒が14%いる」「学級内で認められることが少ない生徒が21.9%いる」という結果が出た。全国平均と比較するとどちらの項目も約半分の割合であるが、学級で認められていないと感じることは、学級生活で不安を感じることに繋がる。このことが不登校の要因になっていることも考えられ、不登校の予防・解消のためにも、よりよい人間関係づくりが求められる。

以上のことから、校区の小学校と中学校が相互に連携を図り、積極的に交流を深めることによって、児童生徒の人間関係や経験を広げるなど広い視野に立った一貫性のある系統的な教育を推進する必要があると考える。

### 3 研究の視点

不登校の解消や未然防止に関して、「対人関係の改善」と「学習指導の充実」の両面から研究を行うこととする。

#### 【伸ばしたい力】

- |               |                |               |
|---------------|----------------|---------------|
| ①基礎学力         | ②自分の考えを書き、伝える力 | ③人の考えを聞き、考える力 |
| ④人の立場に立って考える力 | ⑤異年齢の人とつながる力   | ⑥地域を愛する心      |
| ⑦人の良さに気づく力    | ⑧人といっしょに創造する力  |               |

### 4 研究の構想

#### (1) 研究の仮説

学習コミュニティを活用した授業実践や小中交流会等において、子どもたちがお互い関わる場を工夫すれば、よりよい人間関係を築くことができ、いじめや不登校の解消につながるであろう。

#### (2) 研究の内容

##### ア 集団づくりの工夫

よりよい人間関係を築くためには、子どもたちが安心して過ごせる学級づくりが必要である。

子どもたちにとって、集団の母体となる学級集団におけるスキル学習の充実、活動の場の工夫、環境づくりの工夫、教職員と子どもたちとの関係づくりの工夫などに取り組んでいく。

- 「よりよい人間関係づくり」を育むためのスキル学習の充実 (②、④、⑧)
- 「人間関係づくり」を育む活動の場の工夫 (⑧)
- 「多様な価値」を認め合う環境づくりの工夫 (⑦)
- 確かな実態把握と適切な支援による教職員と子どもたちとの関係づくりの工夫 (⑤)

## イ 学習指導の工夫

よりよい人間関係を築くためには、豊かな心とコミュニケーション能力が必要である。そのために道徳教育の充実と学習指導における人間関係づくりの共通実践が必要である。授業の中に人間関係づくりの視点を持ち、思考力・判断力・表現力を育み、生徒の自己有用感を高める評価の工夫を行っていく。

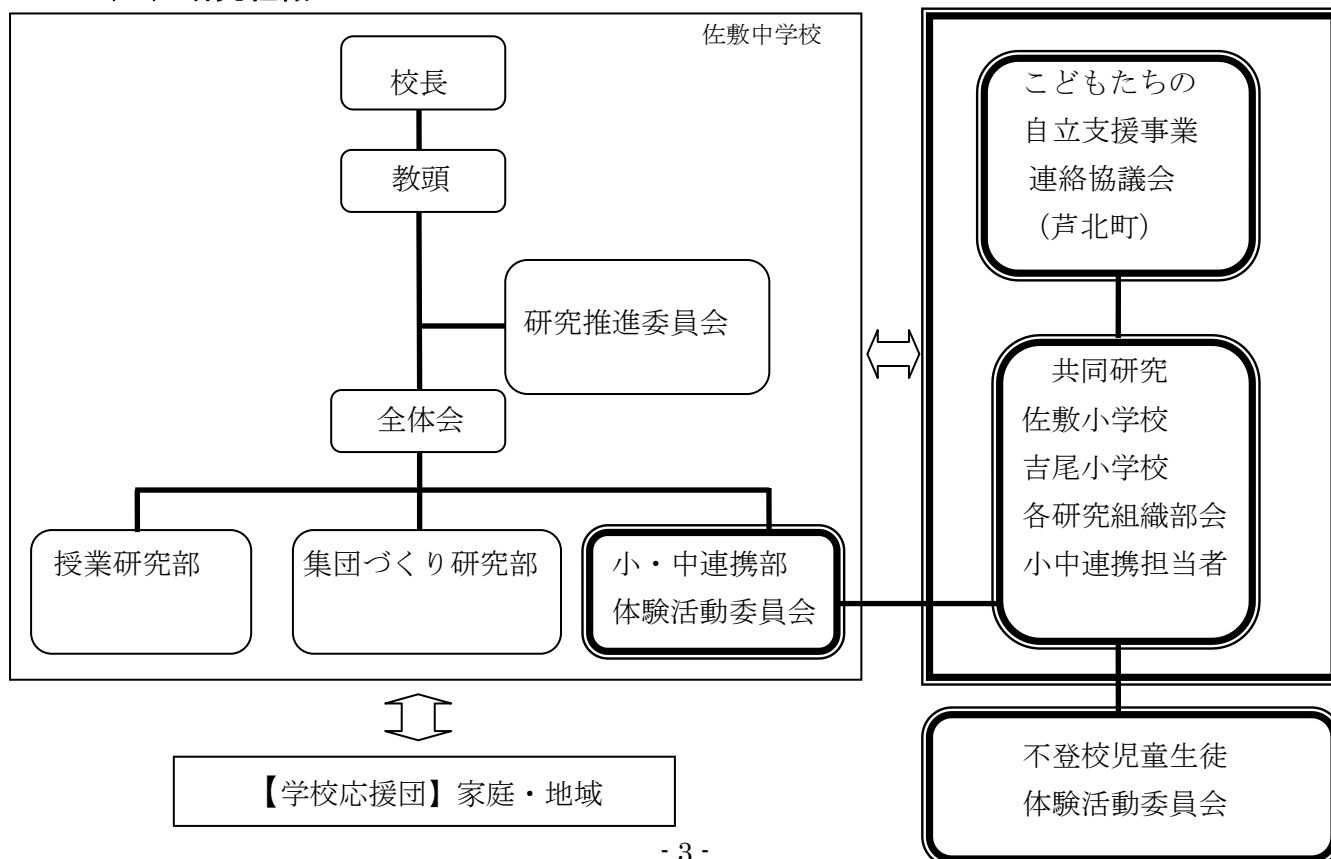
- 「わかる喜び、できる喜び」を感じさせる教材研究 (①)
- 思考力・判断力・表現力を育む授業の工夫 [学習コミュニティの工夫] (①、②、③)
- 子どもの自己有用感を高める評価の工夫 (①)
- 「豊かな心を育む」道徳授業の充実 (④、⑥、⑦)
- ICT等の効果的活用による授業形態の工夫 (①)

## ウ 小中交流活動の工夫、学校復帰に向けたプログラム（不登校児童生徒体験活動）の活用

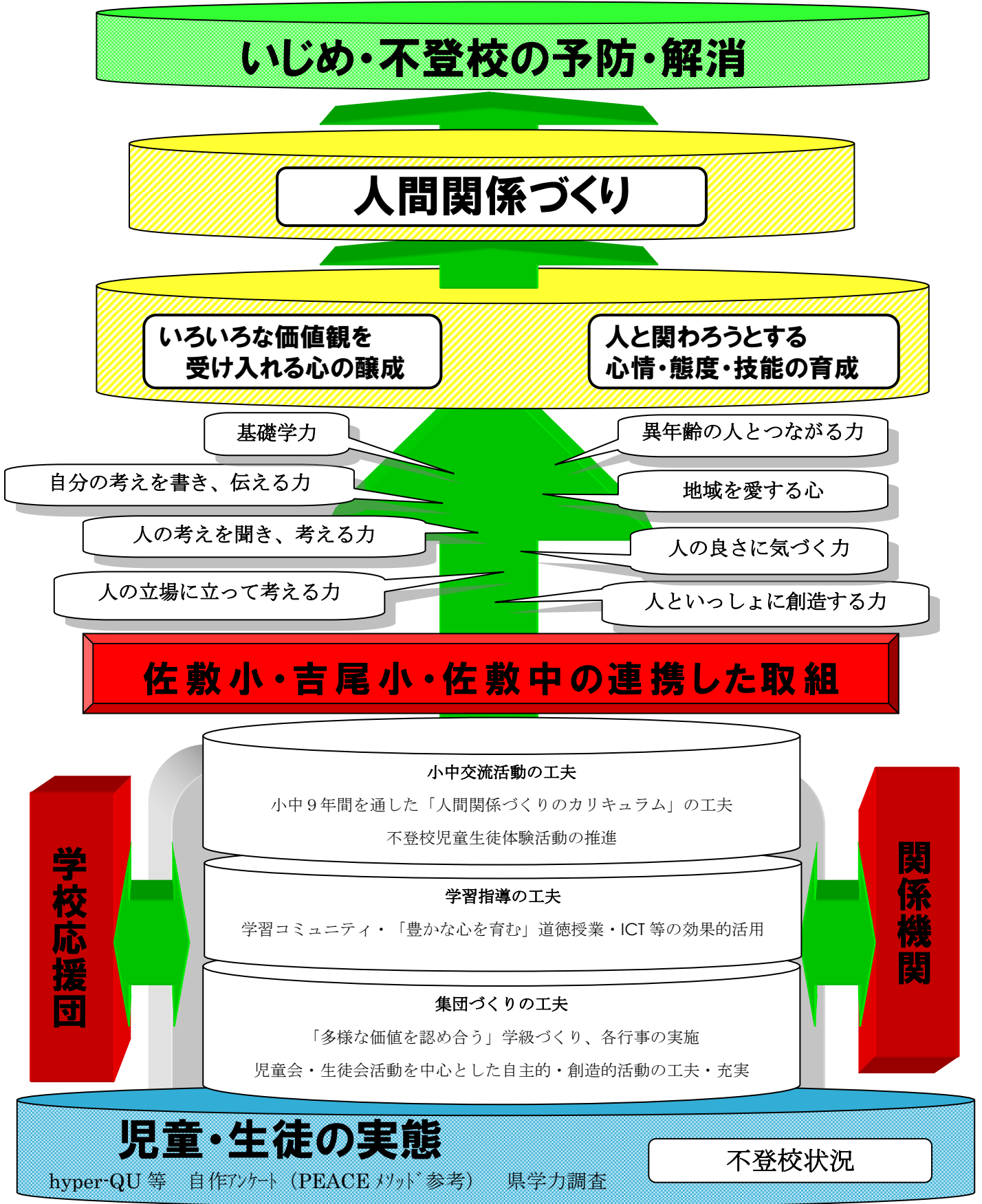
よりよい人間関係を築くためには、学んだスキルを活用する実践の場が必要である。中学校で不登校傾向になるケースが多いため、小学校との交流を活かし中学校生活へのスムーズな適応を図っていく。また、不登校生には体験活動に参加する機会を提供し、学校復帰へつなげていく。

- 小中9年間を通した「人間関係づくりのカリキュラム」の工夫 (③)
- 交流・体験活動の充実 (④、⑤、⑥)
- 中学校生活へのスムーズな適応を図る工夫 (⑤、⑥)
- 不登校児童生徒体験活動 (SO チベッコ会) の調整・推進・参加 (⑤、⑥、⑧)

### (3) 研究組織



(4) 研究構想図



## II 研究の実際

### 1 佐敷小学校の取組

#### (1) 授業研究部の取組

すべての子どもに自分の考えを持たせることに重点を置いて指導を行った。そして、自分の意見を発表したり、友だちの意見を聞いたりして思いや考えを比べ、つないだり広げたりする「比較・交流」の過程を大切にしたい授業展開を意識して授業研究を行った。

#### ア「根拠」を持たせるための取組

図①

授業の中ですべての子どもが自分の考えを持てるよう、手立てを行う。

##### ① 授業冒頭での既習事項の復習

フラッシュカードを用い、単元に関する基礎基本を短時間で確認できるようにした。(図①)。

##### ② 板書・掲示の工夫

教室に前時までに学習したことを掲示し、自力解決のヒントとなるようにした。(図②③)

##### ③ 見通しを持たせる

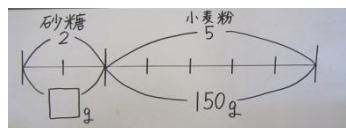
図②

「どうやったらできそうかな」や「何か見えそうなのがないかな」など既習事項を使って問題解決できないか見通しを持たせ、児童から出たキーワードを板書するようにした。(図④)

##### ④ ヒントカードを与える

課題に対して、自分の考えを持つことが難しい子どもには個別の支援として、ヒントカードを与えた。ヒントカードはいくつか用意し、子どもが自分で選べるようにした。(図⑤)

図⑤ ヒントカード



##### ⑤ ホワイトボードの活用

児童一人一人にホワイトボードを与え、自分の考えを表現しやすいようにした。(図⑥)

#### イ「比較・交流」の充実を図るための取組

次ページ

児童の思いや考えを比べ、つないだり広げたりすることで深め合い・高め合いのある学習になるようにする。

##### ① 比較・交流の視点を明確に与える

子どもたちに何を考えさせたいのか、何を話させたいのかを考え、「この中でよりよい方法は」「共通することは」「違いは」「どう考えたのだろうか」など比較・交流の視点を与えるようにした。

##### ② 学習形態の工夫

学習のねらいによってペア・グループ・全体と学習形態を組み合わせるようにした。どの学習形態においても自分の考えを伝え、相手の考えを学び、協同して話し合うこ

とができるようにした。(図⑥、⑦、⑧)



図⑥ ペア学習



図⑦ グループ学習



図⑧ 全体学習

### ③ 友だちの考えを再現・再表現するための工夫

「今、〇〇さんが言いたかったのはどういうことだろう」「この式は何を表しているのだろう」「〇〇さんの考えを隣の人に自分の言葉で伝えてごらん」など、比較・交流での学びを深めるために自分の言葉で再現・再表現する発問や指示を与えるようにした。

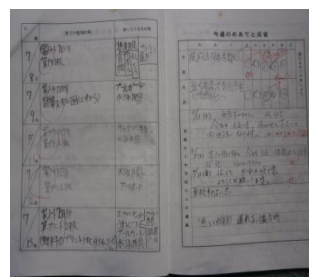
## (2) 日常活動部の取組

児童が生き生きと目標を持って学校生活を送ろうとする態度を身につけさせることや、学級での支持的な風土の醸成を目指し、次のような取組を行った。

### ア 三岳ノートの活用

全児童が連絡帳として使っている三岳ノートで、学習面・生活面を毎日ふり返っている。記入のさせ方や活用の工夫によって、効果的な学習や生活の習慣化を図っている。(図⑨)毎日、自己評価することで、めあてに対する意識を高めている。

また、家庭学習の充実のために、「家庭学習の手引き」を作成し、このノートに貼らせ、準備、宿題、家庭学習、次の日の準備などについて継続して指導できるようにした。



図⑨ 三岳ノート

### イ 一分間スピーチの取組

自分の思いや考えを伝える機会を作ろうと考え、各学年の発達段階や学級の実態に応じて取り組んでいる。学級ごとに、自分が今熱中していること、友だちの良いところ、家族紹介などテーマを決めて取り組んでいる。(図⑩)



図⑩ 一分間スピーチ

### ウ 子ども同士をつなぐ取組

友だちの良いところを小さな紙に貼って掲示する「きらりの木」(図⑪)、友だちにこっそりいいことをしてあげる「シークレットサービス」などの活動を行っている。友だちの良いところに気づく力を身につけ、自分や相手を大切にしようという心をはぐくむきっかけにしている。



図⑪

友だちの良いところを  
掲示したきらりの木

### エ ゆうチャレンジ問題を活用した取組

朝自習を利用し、各学年でゆうチャレンジの過去問題や補充学習に取り組んでいる。毎週木曜日に設定し、取り組むようにしている。

## 2 吉尾小学校の取組

### (1) 授業での取組

本校は、小規模校であり、複式学級になることが多い。複式学級では、2学年が同時に学習を行う複式授業になる。複式授業では、教師が児童につかない間接指導の時間が出てくる。授業の中に学習コミュニティを形成するために、児童が積極的に授業に参加し、自分の意見を出し合えるように以下のことを行った。

#### ア 学習の流れの提示

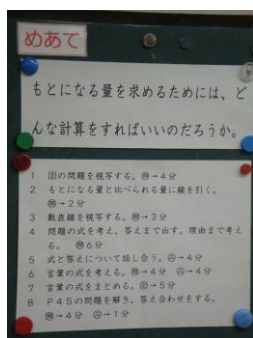
児童が積極的に授業に参加し、主体的に学習に参加するために、授業の最初に1時間の授業の流れを書いた紙を提示し、説明する。学習の流れを書いた紙には、時間も提示されており、それを見て児童が学習を進めていく。学習の流れは、できるだけ教科書の流れに沿うようにし、パターン化できるようにしている。

#### イ 学習リーダー

学習リーダーとは、教師が児童につかない間接指導の時間に、学習の中心となって学習を進めていく中心となる児童である。学習リーダーは、マニュアルに沿って、話し合い活動などを行っている。児童は、学習リーダーが学習を進めていくことで、学習を主体的に進めなければならないという意識が芽生える。また、学習リーダーを持ち回りにすることで、みんなで学習を行っているという気持ちになる。

#### ウ ミニ黒板の活用

児童が自分の考えを説明する際に、ミニ黒板を使用している。また、自分と友達のミニ黒板を見比べることで、相違点を見つけることもできつつある。



学習の流れの提示



話し合いながら学習を進める活動



自分の意見をミニ黒板にまとめる活動

### (2) 授業外での取組

#### ア 自立支援集会

相手の立場に立って考えることができるために、本年度から、業間の時間を使って月に1回ゲーム等を行う自立支援集会を行っている。自立支援集会では、エンカウンター技法を使って相手の気持ちを考えられるようにしている。自立支援集会では、インストラクション(指示)、ウォーミングアップ(準備運動)、エクササイズ(練習)の実施、シェアリング(共有)の一連の流れを基本とし行っている。

月	ゲーム名	ね ら い
5	食べ物大好き	同じものを好むことを知り、友だちの輪を広げる。
6	割り箸 ET づくり	相手の様子を感じ取りながら、関係を促進する。
7	無言で心の触れ合いを	互いに協力することの大切さや一体感を感じる。
9	私の好きなもの・こと	よいところを確かめ、自分を肯定する気持ちを育てる。
10	じゃんけんエクササイズ	合わせる難しさや合ったときの自分の気持ちに気づく。
11	私は〇〇です	個性に誇りを持ち、よいところを認め、肯定する気持ちを育てる。
12	トラストウォーク	思いやりや優しさ、人に対する接し方に気づく。
1	ラインに並べ	互いに協力して、連帯感の大切さに気づく。
2	この手はだあれ	友だちの手の様子に違いに気づき、関係を促進する。
3	トラストパッティング	軽くたたき合いながら、スキンシップを図る。

### イ 吉尾小10・10・1運動

10・10・1運動は、「ありがとうが10回言えたか。」「あいさつが10回できたか。」「友だちのがんばっているところに気づいたか。」ということ帰りの会の時、シートに書いて振り返る運動である。「ありがとう」の言葉が増えることで感謝する気持ちを育て、「あいさつ」の声が飛び交うことで明るい学校とし、友だちのよいところを書くことで友だちのことを認める気持ちを育むことを目的としている。2学期からは、自分がかんばったことを追加して行っている。

吉尾小 10・10・1運動 がんばりシート (月1回～6月/毎)

月	日	火曜日
上	の二つは、〇(できたぞ～) △(もう少しだったぞ～)、下はどちらかを〇で囲んでね	
月	「ありがとう」を10回以上、みんなにいうことができたか。ア	
日	だれにでも、たちどまって「あいさつ」が10回以上できましたか？	
日	友だちや自分の いいところ、または、うれしかったこと	
日	今日、で～	さんが、
日	これはすばらしいことでした。私もがんばります。 〇とがうれしかったです。	
日	「ありがとう」を10回以上、みんなにいうことができましたか。ア	
日	だれにでも、たちどまって「あいさつ」が10回以上できましたか？	
日	友だちや自分の いいところ、または、うれしかったこと	
日	今日、で～	さんが、
日	肩の力を抜いて(ゆめを)かき、おたのしみですか？	
日	これはすばらしいことでした。私もがんばります。 〇とがうれしかったです。	

吉尾小 10・10・1運動 がんばりシート 2学期バージョン

月	日	火曜日
上	の二つは、〇(できたぞ～) △(もう少しだったぞ～)	
月	「ありがとう」を10回以上、みんなにいうことができたか。ア	
日	だれにでも、たちどまって「あいさつ」が10回以上できましたか？	
日	友だちや自分の いいところ、または、うれしかったこと	
日	今日、で～	さんが、
日	これはすばらしいことでした。私もがんばります。 〇とがうれしかったです。	
日	「ありがとう」を10回以上、みんなにいうことができたか。ア	
日	だれにでも、たちどまって「あいさつ」が10回以上できましたか？	
日	友だちや自分の いいところ、または、うれしかったこと	
日	今日、で～	さんが、
日	これはすばらしいことでした。私もがんばります。 〇とがうれしかったです。	

10・10・1運動1学期バージョン

10・10・1運動2学期バージョン

### ウ 全校(善行)表彰

子どもたちが自分自身に自信を持ち、互いに認め合えるようにするために、学期ごとの終業式で、全校表彰を行っている。「みんなのために水くみをした」「元気な声であいさつをすることができた」など表彰の内容は、その学期の子どものがんばりから決めている。



全校表彰の賞状



表彰式

### 3 佐敷中学校の取組

#### (1) 集団づくり研究部の取組

##### ア 「よりよい人間関係づくり」を育むためのスキル学習の充実 (人間関係づくりゲーム)

〔目的〕 短時間の中にゲーム性のある活動に積極的な関わりを行うことで、「人の考えを聞き、考える力」を育む。

〔具体的内容〕 毎週火曜日の帰学活の時間にゲームを通した15分間のスキル学習を行う。その後、毎回振り返りの時間を設定している。



5月	フレンドシップ	思いや発想を共有する	連想ゲーム。お題から連想する言葉を1分間でたくさん書く。グループで互いが連想したものを知る。
6月	以心伝心	相手に伝わる説明と理解	2人組を作り、それぞれが絵の描かれたカードを持つ。相手の言葉を聞いて、その絵を描いてみる。

##### イ 「人間関係づくり」を育む活動の場の工夫

〔目的〕 生徒会活動を通して、異年齢の生徒が協力して発表したり、小中学校の児童生徒が楽しく活動できる場を企画したりし、「人といっしょに創造する力」を育む。

〔具体的内容〕

- ① 生徒集会における委員会の発表
- ② 小学生への学校紹介と交流会の実施
- ③ 新入生歓迎会（歓迎遠足時）の企画・運営



##### ウ 「多様な価値」を認め合う環境づくりの工夫

〔目的〕 学校行事を通して、お互いの作品を鑑賞したり、全校生徒で取り組む活動を振り返ったりし、「人の良さに気づく力」を育む。

〔具体的内容〕

- ① 写生大会における「いいところ探し」
- ② 体育大会における「お礼カード」の作成



##### エ 確かな実態把握と適切な支援による教職員と子どもたちとの関係づくりの工夫

〔目的〕 実態に応じた支援を行うことで、教職員と子どもたちが、より親密な信頼関係で結ばれ、学級における人間関係を良好にするとともに、「異年齢の人とつながる力」を育む。

〔具体的内容〕

###### 【実態把握のための取組】

- ・hyper-QU（年2回実施）
- ・PEACEメソッド
- ・生徒アンケート（年4回実施）

###### 【関係づくりのための取組】

- ・こころ連絡会（毎週木曜日の朝に各クラスから気になる生徒の報告を行う）
- ・校内支援委員会（月1回開催）
- ・教育相談（学期1回実施）

## (2) 授業研究部の取組

授業におけるよりよい人間関係づくりを、「学習コミュニティ」を活用し工夫した。

### ア「わかる喜び、できる喜び」を感じさせる授業の工夫 [学習コミュニティの工夫]

#### ① 「学習コミュニティ」について

学習コミュニティとは、芦北教育事務所管内で取り組んでいる学習形態で、「協同的な活動の中で、知識を共有し、考え方を学んでいく」ことを目標としている。(資料集参照) 授業における人間関係づくりの土台として、人と意見を交わすために、一人一人に考えをしっかりと持たせる必要があることから、研究に取り組んでいる。

特に「生徒一人一人に自分の考えを持たせて(根拠)、学習目標を達成するために視点を明確にしたペアやグループで練り合いをする。(比較・交流)」という「根拠」と「比較・交流」について研究を行ってきた。

#### ② 模擬授業の実施

中学校は教科担任制ということもあり教材研究の段階では教科担当に任せきりになりがちである。そこで、全職員で積極的に教材研究ができるようにと研究授業の前に教職員を生徒役とした「模擬授業」を実施した。

「模擬授業」では、「生徒のよりよい人間関係づくりにつながる授業形態の工夫について」に絞り「学習コミュニティの活用は、ねらいに即したものであったか。生徒の思考の流れに沿った生徒をつなぐ発問、指示であったか。」の2つの視点を持ち、実際に50分の授業を行い、その後、研究会を設けて全職員で意見交換を行った。



(英語科模擬授業の様子)

#### ③ 研究授業の実施

平成24年度は、1学期に「英語」と「国語」の研究授業を行った。以下が、実際に行った研究授業での学習コミュニティの工夫(「根拠」と「比較・交流」)である。

国語科の実践(豊かな言葉 俳句の可能性 光村図書3)  
目標: 俳句(一句)に読まれた、作者の思いや俳句の情景を読み味わうことができる。



(国語科の研究授業の様子)

#### 【 根拠 】

ワークシートの俳句の情景を個人で想像するために「どの子」「涼しく」「風」等の言葉に着目させる。

#### 【 比較・交流 】

俳句に込められた作者の思いをふくらませるために、考えた情景について話し合わせる。

### イ 「豊かな心を育む」道徳授業の充実

道徳教育の充実では、道徳教育および学級活動を通じた生徒のよりよい人間関係づくりを目標としている。具体的な手立てとして、主に「道徳の授業における効果的な学習コミュニティの場の設定と工夫」、「人間関係づくりに関する道徳の授業の計画的・系統的な指導の工夫」に取り組んでいる。

### (3) 小・中連携部の取組

#### ア 小中学校9年間を通した「人間関係づくりのカリキュラム」の工夫

##### ① カリキュラム作成の目的

小中学校の円滑な接続のために、教職員が共通理解を図りながら、9年間の見通しをもって人間関係づくりに取り組むことができることをねらいとした。

##### ② カリキュラムの内容について

佐敷中学校区の目指す子どもの姿を、①挨拶・返事のできる児童生徒、②家庭学習の習慣が定着している児童生徒とし、それぞれの内容について系統性をもたせ、各学校での実践に活用するようにした。(別添資料参照)

#### イ 交流・体験活動の充実

##### ① 交流会の目的

各学校で行ってきた人間関係づくりに関わる学習で得たスキルを実践する機会とする。子どもが主体となる交流活動を通して、人間関係づくりに関わる心情・態度・技能のさらなる向上を目指す。また、個々の児童と生徒が心情面で温かく結ばれることを目指し、そのことを通して児童生徒の自己有用感を育むことをねらいとした。

##### ② 打合せ会

5月に校内研修として、小・中学校全職員が参加し打合せ会を行った。そこで、佐敷中学校校区の「不登校・いじめ」に関する状況報告や交流の目的の共通理解を行った。その後、小学校からの交流内容の提案をもとに各姉妹学級担当同士で具体的な打合せをした。交流会の直前にも各担当同士で最終打合せの時間を持って、指導者間の連携を図った。下の表は年度当初に立てた交流計画である。



	①	②	③	④	⑤	⑥
小	1の1	1の2	2の1	2の2	3の1	3の2
中	1の1A	1の2A	2の1A	2の2A	3の1A	3の2A
交流1回目	レクリエーションまたは野菜の苗植え		体育(マット・跳び箱運動)		ボディパーカッション	
交流2回目	水遊び		パソコンに親しむ		ボディパーカッション	
交流3回目	収穫祭		グループ音読		ボディパーカッション・発表会	
	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
小	4の1A	4の1B	5の1	5の2	6の1	6の2
中	1の1B	1の2B	2の1B	2の2B	3の1B	3の2B
交流1回目	自己紹介・キャッチバレーボール		タマネギ収穫		タマネギの収穫	
交流2回目	体育(水泳)		絵手紙制作		リズムダンス	
交流3回目	壁画作り		中学校の紹介・質問タイム		ビーチバレー	

③ 自己紹介カード

交流前に自己紹介カードを作り、それぞれの姉妹学級に事前に渡し、掲示するようにした。休み時間等を通して交流相手を理解することで、児童生徒の関心を高め、より多くの人との関わりを持たせることをねらいとした。



小学校からもらった自己紹介カードを休み時間に見たり、友人の弟や妹を探したりする生徒の姿が見られた。

④ ソーシャルスキル学習

交流会を行う事前学習として、ソーシャルスキル学習を行った。【 】は特に伸ばしたい8つの力である。

(ア) 実践事例1 (第1回ソーシャルスキル学習)

題材名「聴き方名人になろう」

目標 受容的に話を聞いてもらう心地よさがわかり、受容的な聴き方ができるようになる。【③人の考えを聞き、考える力】

展開

学習活動	教師の支援
<p>1 「悪い返事」の例から問題点を考える。</p> <p>2 活動① いろいろなあいづちを使って、ペアの人と話す。</p> <p style="text-align: center;">あー、なるほどね。</p> <p style="text-align: center;">そうなんだあ！</p> <p>3 活動② よい聴き方、悪い聴き方について、ペアで聴き方のスキルに基づいてよかった点を教え合う。</p> <p style="text-align: center;">ここにこして聞いてくれて嬉しい。</p> <p>4 自己評価をする。</p> <p>S1「小学生と交流するときは、聞き返す時は優しい言葉と表情が大事だと思った。」</p> <p>S2「相手は年下なので、友だちと話すときよりも、いっそう笑顔でよく聞いてあげたいと思う。」</p> <p>S3「私は話を聞くときに、相手を見ていない時があるので、気をつけようと思った。」</p>	<p>あいづちのない会話を例に出し、あいづちの大切さ、聴く態度の大切さに気づかせる。</p> <p>互いに印象を確かめ合うことで、聞く技能の向上を図る。</p> <p>今回の学習を交流会に結びつけるよう、言葉かけをする。</p>

(イ) 実践事例2 (第2回目ソーシャルスキル学習)

題材名「どうしたのかな?～気持ちを考えてみよう」

目標 場面絵を見て、その人の気持ちと背景を想像し、相手の表情から気持ちを理解することに慣れることができる。【④人の立場に立って考える力】

展開

学習活動	教師の支援
<p>1 活動① 場面絵を見て、背景と気持ちを想像する。</p> <p>2 活動② 言葉のかけ方を班で考え、交流する。 (周りの友だちは遊んでいるのに、掃除をしている児童に対しての言葉かけ)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>私なら、「手伝おうか?一緒に掃除しよう。そして後で一緒に遊ぼうよ。」って言うかな…。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>私は「どうしたの?手伝おうか?一緒にがんばろう。」にしたよ。</p> </div> </div> <p>3 次回の交流会の目標を考える。</p> <p>S1 「困っている人にも声を掛け合える楽しい交流会にしたい。また、普段の生活でも人の気持ちを考えた発言をしたい。」</p> <p>S2 「この前の交流会で、気持ちを言えないでいた小学生がいたかもしれないから、そんな人に気付いて声をかけられるようになりたい。」</p>	<p>「もじもじしていて活動に参加できない児童を見かけた時、どのような声かけをするとよいただろう。」など具体的な場面を思い起こさせ、学習の必要性を考えさせる。</p> <p>言葉のかけ方について考えたことを交流することで、よりよい表現に気付かせ、自分の考えに自信を持たせることで行動へ結びつける。</p>

(ウ) 実践事例3 (第3回目ソーシャルスキル学習)

題材名「目指せ!しずかちゃん～すっきり解決の術」

目標 相手も自分も納得できる言い方ができる。【②自分の考えを書き、伝える力】

学習活動	教師の支援
<p>1 シナリオA「テスト前、勉強したい教科のノートを貸してと頼まれました。」どう答えるか、考えてみる。</p> <p>2 3つの話し方から学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シナリオB「水飲み場に並んでいる時、割り込みをした子がいました。」を読む。</li> <li>・しずかちゃんの答え方のよいところを考える。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p>ていねいな言い方だな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%;"> <p>私だったら、どう言うかな。</p> </div> </div> <p>3 シナリオAの答え方を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように答えるとよりよくなるか考える。</li> </ul> <p>4 今日のふり返りをし、小中交流ではどういうことに気をつけたいか、まとめる。</p>	<p>シナリオAの自分の答え方は何タイプであるか考えさせる。</p> <p>自分も人も大切に自己表現の仕方(しずかちゃんタイプ)に気づかせる。</p> <p style="text-align: center;">【アドバイス例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「今から帰ってその勉強しようと思っているの。だから今回は貸してあげられないわ。この次から、もう少し早く言ってくれたら貸してあげることができると思うわ。」と丁寧にしかし、はっきりとそのたのみに応じられないことを言う。</p> </div>

## (エ) 実践の考察

【第1回の学習】 実際にロールプレイングをしながら、その時の気持ちを体感した。特にいやがられる聴き方と信頼に繋がる聴き方については、生徒にとって有用感があり、日常的に意識するきっかけとなった。

【第2回の学習】 困っている表情のイラストを小学生に例え、「その場に自分が居るならば」と、よりよい声かけを考えさせることで、表情や背景から読みとり、よりよい言葉かけの方法を見いだす実践スキルを養った。

【第3回の学習】 実践的な学習であったため、自分のこととして考えようとする態度が見られた。「小学生にあまり怖がられない言葉遣いに気をつけて、相手が嫌な思いをせずすむようにしたい。」等の感想が得られた。

### ⑤ 交流会の実際（抽出クラスによる例）【伸ばしたい力】

交流対象学年	第1回 5月31日	第2回 7月10日
佐敷小2年 佐敷中2年	<p>跳び箱運動【人の考えを聞き、考える力】</p> <p>跳び箱のいろいろな跳び方を中学生がお手本として見せ、班ごとに一緒に練習を行い最後に練習の成果を発表した。</p> 	<p>パソコン学習【人の立場に立って考える力】</p> <p>小学生が算数か国語の学習を選択し、中学生がヒントを出したりやり方を教えたりして学習した。中学生がミニテストを出題。できたら赤で花丸をつけメッセージを書いて渡した。</p> 
佐敷小6年 佐敷中3年	<p>玉葱の収穫【人といっしょに創造する力】</p> <p>小中学生の班ごとに玉葱を掘り、葉の部分を切り、それをコンテナに詰めて、岩手県大槌町へ送る準備をした。</p> 	<p>ダンス【異年齢の人とつながる力】</p> <p>自己紹介後に体育大会で女子が踊った創作ダンスを小学生に教え、最後のポーズを決めて発表会をした。</p> 
吉尾小全学年 佐敷中	第1回 6月15日	
	<p>カヌー体験・吉尾小紹介【異年齢の人とつながる力】</p> <p>小学生と中学生がお互いの自己紹介後に、カヌーを体験した。小学生が中学生に教える場面もあった。小学生が吉尾小の紹介をした。交流の最後に、感想を伝えた。</p> 	

### ⑥ 感想交流

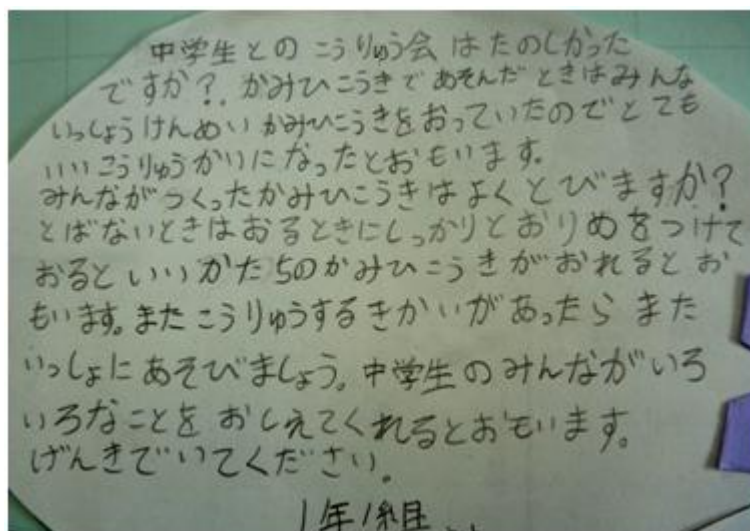
交流後に姉妹学級に渡す感想と振り返りシートを書いた。他者へお礼や感想を書き、相手から感想をもらうことで子どもたちの自己有用感を高めることをねらいとしている。



また活動を振り返ることで何を学び、それを今後の活動や生活にどのように活かすか考えを深めさせるねらいもある。

振り返りシートでは、自分の行動を振り返ると同時に、教師側も子どもたちの様子を文章からくみ取るようにした。

子どもたちからは、「名刺交換した時の小学生の笑った顔がとてもよかったです。」などの感想が出てきており、一番多かったのは「自分の名前を覚えてもらっていたのが嬉しかった。」という感想であった。



## ウ 中学校生活へのスムーズな適応を図る工夫「中学校体験入学」

### ① 目的

- (ア) 次年度に中学生となる6年生児童が、中学校の授業の雰囲気を知り、部活動や生徒会活動の様子を理解する機会とする。
- (イ) 中学校の様子を知ることによって、入学への不安感を軽減し、中学校生活への期待感を高める。
- (ウ) 6年生担任に中学校の授業を経験してもらい、中学校へ向けての授業展開に活かす。
- (エ) 小学校の先生が中学校1年生の様子を知ることによって小学校の指導の改善に役立てる。

### ② 体験活動内容

1・2年生授業見学（30分間）（引率：中学校担当者）
体験授業①社会「都道府県を覚えよう」（25分間）
体験授業②美術「構成の基本を使ったしおり作り」（25分間）
生徒会発表「中学校生活について」、質問タイム
佐敷中学校説明会についての連絡

### ③ 体験活動の様子

- 体験授業に積極的に参加し、「できた。」という成就感を得た様子であった。
- 生徒会の子どもの発表をよく聞き、たくさんの質問をしていた。
- 「小学生と小学生」「中学生と小学生」「小学生と中学校教師」「小学校教師と中学校教師」の人間関係をつくることができ、円滑な連携へのきっかけとなったと思われる。
- 小学校の先生に中学1年生の様子を見てもらい成長した姿を見せることができた。



## エ 家庭との連携の工夫（「4点固定カード」）

### ① 「4点固定カード」の目的

「4点固定」とは、①起床時刻、②家庭学習開始時刻、③就寝時刻の3つの時刻を決めることと、④朝食の摂取のチェックを行うことで、一日の生活リズムを整え、基本的な生活習慣の確立を目指すものである。生徒が保護者と話し合い、3つの時刻を家庭内で決め、カードにできたかできていないかを記入している。小学校では、「3点固定」として①～③の内容で行っている。

4月の取組開始の月に、養護教諭からの説明のプリントと「4点固定カード」を配布し、各家庭へ協力を依頼している。

### ② 取組の実際

取組期間の一週間は、全学級で朝の会にカード記入の時間をとり、前日の生活を振り返った。土日はカードを持ち帰り、家族からコメントをもらうことで、各家庭との連携を図った。

変容のあった生徒として、3年生の抽出生徒の例（※別紙資料）を見ると、1年生の1月より「○」の数が増え、朝起きる時刻が定まりつつあることが分かった。しかし、多くの生徒は前年と大きな変化は見られない。保護者のコメントには、「もっと早起きをして時間を有効に使ってほしい」、「声をかけるようにしているが、なかなか定着しない」などがあった。

## オ 不登校生児童生徒体験活動（SO チベッコ会）

### ① 事業主催者

芦北町教育委員会が主催し、事務局を佐敷中学校として実施する。

### ② 事業の概要

(ア) 毎月1回、月末に実施する。10時～14時までの4時間を実施時間とする。

(イ) 不登校生とその保護者を対象とするが、不登校生以外の参加も可とする。

(ウ) 生徒の輸送は、保護者にお願いするが、できなければ不登校対策支援員が担当する。できるだけ学校に集合して、学校から会場へ向かう。会が終わってからも、学校へ立ち寄って会の様子を報告する機会を持つ。（学校へつなげる工夫）

(エ) 指導者：主任児童委員、いじめ・不登校アドバイザー、SSW、福祉事務所子ども相談委員、各学校不登校対策支援員、各学校担当者

### ③ 目的

不登校または不登校傾向の生徒たちに、学習や体験の機会を提供して、少しずつ家から出て活動することを目指す。さらに、その場に集い、みんなと活動することによって持てるエネルギーを高めて、最終的には学校復帰を実現するために実施する。

保護者も子どもと共に活動したり、活動に参加できない子どもに代わって活動を体験したりして、次回の参加を促す機会をつくる。また、保護者相互の交流にも役立てる。

④ 具体的内容

(ア) 不登校児童生徒体験活動 (SO チベッコ会)

【平成23年度】

回	活動内容	参加者数	回	活動内容	参加者数
1	パンづくり	4	7	秋の紅葉散策・新聞学習	2 (風邪欠2)
2	機械織りのコースターづくり	4	8	フェルト手芸(園児と交流)	4
3	七夕かざり作り、そうめん流し、魚釣り	4	9	クリスマスケーキづくり	5 (内数:小1)
4	キャンプ (一泊二日)	1	10	書き初め(講師:墨人 新立航大氏)	3 (内数:小1)
5	そばづくり・ウッドバーニング	3	11	給食に感謝して! バランスのよい料理づくり	5 (内数:小1)
6	絵はがきを描こう	3	12	春のハイキング	5 (内数:小1)

【平成24年度】

回	活動内容	参加者数	回	活動内容	参加者数
1	フェルト手芸・園児との交流	4	3	絵はがき作り・手巻き寿司作り	4
2	ウッドバーニング・ピザ作り	4	4	キャンプ (一泊二日)	3

(イ) 「学習教室」の実施計画 (平成24年度新規)

芦北幼稚園にて、町内の不登校生を対象に、週二回程度 (1回2～3時間) 実施する。進路などの将来を見据え、学習の大切さを説いて参加を促すもので、基本的には学校で行っている学習内容を自習する。支援には不登校対策支援員及び参加不登校生の学校の学習支援員があたる。



(ピザづくり)

(ウ) 「芦北幼稚園との交流」の実施 (平成24年度新規)

「体験活動」「学習教室」に参加した時、芦北幼稚園の行事及び日常の保育活動にも参加する。日頃、交流しているお礼を述べることや指導補助としての役割を果たすことで自己有用感を高めさせる。生徒が「体験活動」や「学習教室」より行事参加に意欲的であれば、それを最優先して取り組むことも認めている。



(ウッドバーニング)

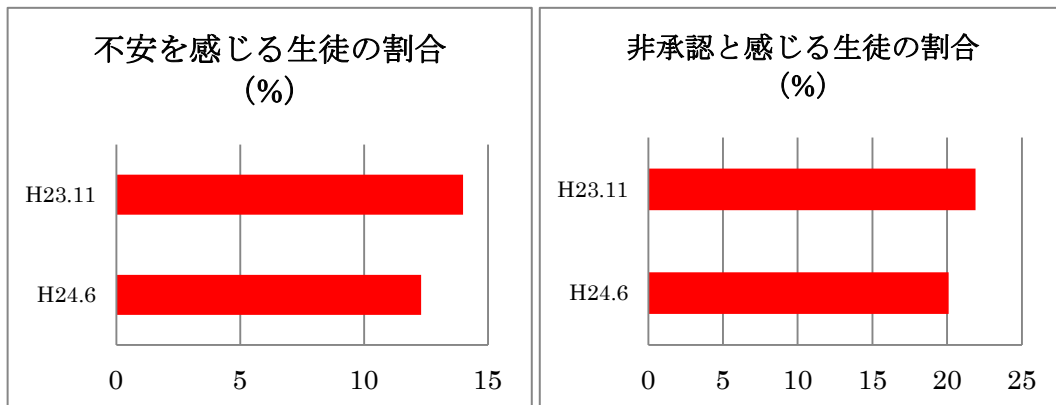
⑤ 生徒の様子

学校での硬い表情と違い、穏やかで時々笑顔を見せながら安心して活動している。会話も普段より大きな声が出せ、楽しんでいる様子が伺える。作品が完成するまで集中して取り組んでおり、達成感を味わうことができている。また、完成した作品を学校へ持って行き、担任に見せるなどして、事後報告をすることができている。

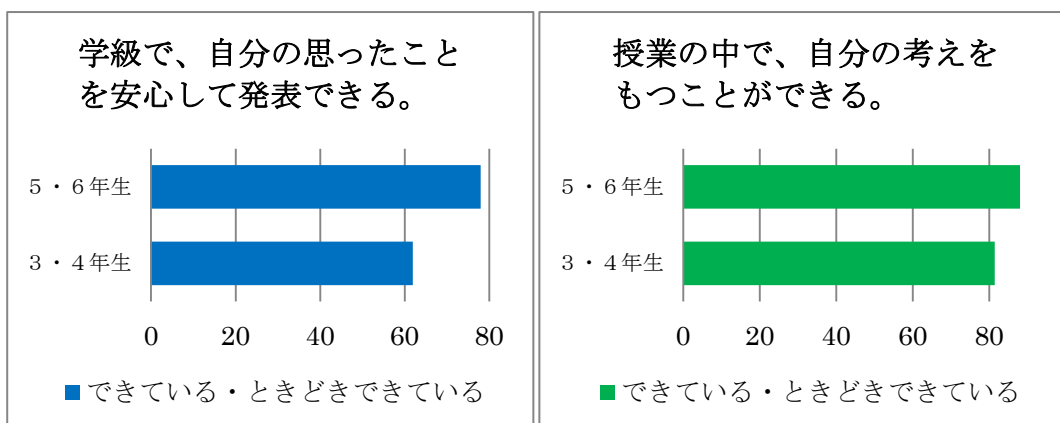
### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 アンケート等の結果

(1) 佐敷中学校：平成23年度・平成24年度実施「hyper-QUの結果」



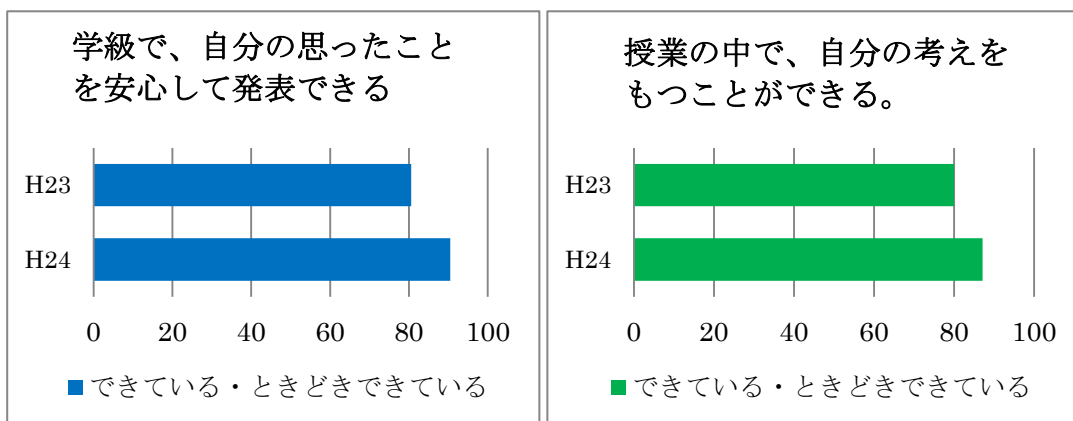
(2) 佐敷小学校：平成24年9月実施「芦北管内学習アンケート」結果



(3) 佐敷中学校：平成23年度・平成24年度実施「芦北管内学習アンケート」結果

ア 集団づくりの工夫に関して

イ 学習指導の工夫に関して



#### ウ 小中交流の工夫に関して

～佐敷中学校、生徒の感想より～

今日学んだことを、これからも覚えておきたいです。今年はまだ交流会は終わったので、少し残念だけど、また来年会えたらいいなと思います。これからは、もっと、小さい子どもや知らない人とも自分からしゃべることができるようになりたいです。

小中交流日の朝、小学生が「今日はよろしくお願いします。」と言ってくれた。手を振ったら、かわいく手を振りかえしてくれました。

(4) 不登校児童生徒数の推移(佐敷中学校区3校、平成22年度、23年度は4校)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度(9月)
小中学校計	3名	2名	0名

## 2 成果及び考察

- 集団づくりの工夫に関して、中学校では、hyper-QUの結果、学級生活で不安を感じる生徒の発値が1.7ポイント、非承認とを感じる生徒の発値が1.8ポイント減った。また、芦北管内学習アンケート結果から、「学級で自分の思ったことを安心して発表できる」児童生徒の割合が、小学校では中学年より高学年が16.1ポイント、中学校では研究前と比べて9.9ポイント上昇していることから成果が上がっていることが伺える。これは学級を母体としたスキル学習が効果的に定着しつつあることが挙げられる。また、授業づくりの中でも人間関係づくりの視点に重きを置いた全校的な取組が効果的であったことが挙げられる。
- 学習指導の工夫に関しては、管内学習アンケート結果から、小学校では、「授業の中で自分の考えを持つことができる」児童生徒の割合が中学年より高学年が6.6ポイント、中学校では研究前と比べて7.1ポイント上昇している。これは、課題に対して子どもたちが考えるとき、子どもたちの思考に沿った視点を与え根拠をより明確にするなど、個人の意見や考えをもたせるための手立てが効果的であったことが挙げられる。
- 小中交流の取組に関しては、生徒の感想から伺えるように、子どもたちの自己有用感を高めるのに非常に効果があった。特に、中学生にとって、小学生の受容的態度や頼りにする言動から、人に対しての接し方を学び、積極的な関わりを持とうとする意欲を育むことにつながった。
- 不登校の解消に関しては、不登校児童生徒体験活動をきっかけに、家から外に足を踏み出し、多くの人との関わりを通して自信を持つことがで

き、学校への復帰につながった。この体験活動による小さな成功体験の積み重ねが子ども自身の自信につながり、学校復帰という高いハードルを越える力を蓄積することができたことが挙げられる。また、不登校児童生徒体験活動を通して、複数の人々と関わりを持つことで、支援の可能性が広がったことも一因として挙げられる。

### 3 課題と今後の志向

1つ目に、集団づくりの工夫により、子どもたち同士の人間関係づくりは良い方向に進みつつある。ただ、教師と生徒の関係において、「先生から褒められたことがありますか」という問いに対して、子どもが「はい」と答えた割合は84.6ポイントと目標値である85ポイントに届いていない。より受容的な態度で支援するといった職員の意識を高め、研修等で指導力を高めていきたい。教師自身の意識を変えることで、子ども自身の自己有用感も高まり、お互いが認め合い、お互いを大切な存在として認識し、学校全体の人間関係がさらに温かいものになることが期待できる。

2つ目に、学力に関して、今後12月の中学校県学力調査の結果を分析し、継続して授業の工夫・改善に取り組んでいく必要がある。また、小中連携をさらに充実させ、9年間を見通した学習状況の記録等を作成・活用することが必要である。各学習調査の分析により、より子どもの実態に即した授業づくりが可能になるとともに、学習状況の継続した記録によって、子ども一人一人の教育的ニーズに合った学習課題等を創造することができる。そのことによって、学習におけるギャップを解消し、小学校から中学校への滑らかな接続が期待できる。

3つ目に、小中交流では、本年度の課題を踏まえて、子どもたちにつけさせたい力をさらに精選し、交流のねらいを明確にして取り組む必要がある。また、交流する学年の検討、打合せの時間や場の工夫が必要である。さらに、効果的な交流にするための合同研修会の設定も必要である。これらを踏まえて、継続的な小中交流の取組を行えば、交流を体験した児童と生徒が共に中学校生活を送ることで、中学校に進学する際の不安を解消することにつながることを期待できる。

4つ目に、不登校児童生徒体験活動は、試行錯誤の段階であるので、関わる方々の役割を明確にするとともに内容を整理し、より確かなプログラムを作成する必要がある。また、町全体に周知すると同時に参加しやすい啓発の方法が必要である。これらを行えば、不登校や不登校傾向の子どもたち一人一人の段階に合った、「関わる人物」や「体験する活動」を明確に設定することができ、より早い段階での不登校解消や防止が期待できる。

おわりに

平成23・24年度の2年間、文部科学省・熊本県教育委員会から「子どものための自立支援事業」の指定を受けた芦北町教育員会の委嘱を受け、23年度は、佐敷小学校、吉尾小学校、計石小学校、佐敷中学校の4校で、24年度は、計石小学校を統合した佐敷小学校、吉尾小学校、佐敷中学校の3校で、「不登校の予防・解消につながる生徒のよりよい人間関係づくり」という研究主題のもと、研究実践に取り組んでまいりました。

本日の発表でお示したように、芦北町の小学校には不登校の児童はいません。しかし、中学校になると、不登校生が現れます。過去3年間の不登校生や不登校傾向をみますと、21年度2人、22年度3人、23年度2人と皆無になることはありませんでした。その時期、その場でベストと思われる取組を行ってきましたが、その場限りの感が拭えませんでした。どのような取組を積み重ねていけば、不登校は解消される方向に向かうのか、その具体的なプログラムの構築が最優先でした。

昨年度から、「子どもたちの自立支援事業」の指定を受けて、取り組んでいく中で、今まで見ていなかった、組織的な取組や連携不足の課題が見えてきました。また、教師の経験則だけでのとらえでなく、hyper-QU等の客観的なデータによる分析を通して課題を明確にしたり、それを根拠にした取組をしたりすることが必要だと分かってきました。例えば、不登校傾向及び不登校生に対しては短期的なものではなく、あるスパンの中での取組を計画的に行い、必ず客観的な評価を伴わせ、次へのステップアップした体験活動等を仕組んでいくという、継続的で組織的な活動等の積み重ねが重要であることが分かりました。また、不登校生同士をつなぐ横の連携（SOチベッコ会）や異学年同士で同じ活動に取り組む縦の連携（小中交流会）など、実際の活動を通して、初めてその効果を実感することも少なくありませんでした。アンケートの結果や気になる子ども一人一人の感想が変容していく様子には、この研究の手応えとともに有効性を感じました。

今回の3校の研究実践はまだまだ未熟な点が数多くあります。今後、それぞれの学校（校種）の特性を踏まえ、それぞれの専門性を生かしながら、9年間を通して子どもたちを育むという意識がさらに重要になってきます。そのために、現存する組織を常に見直し、進化させ、登校に抵抗のある子どもたちへの助けになるよう、さらに充実したものにしていかなければならないと思います。今回の発表を機に研究と実践を整理し、さらに深めながら、子どもたちの学力向上とよりよい人間関係を主とした生きる力を育む教育活動の推進に努めてまいります。

最後に、研究推進に当たりまして、御指導、御助言を賜りました熊本県教育委員会、熊本県芦北教育事務所、その他多くの方々に感謝し、深く御礼申し上げます。

#### 【主な参考文献】

- 「いじめ追跡調査 2007-2009 いじめ Q&A」国立教育政策研究所 平成22年
- 「平成22年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果」文部科学省
- 「平成18・19・20年度自立支援モデル事業実践的研究のまとめ」玉名市教育事務所、玉名市教育委員会
- 「平成18・19・20年度自立支援実践モデル事業研究紀要」八代市教育委員会 八代市立植柳小学校、麦島小学校、第三中学校 編
- 「平成22・23年度子どもたちの自立支援事業研究紀要」八代市教育委員会 八代市立金剛小学校、第六中学校 編
- 「生きる力を育てる異年齢集団活動の展開」成田國英著 明治図書
- 「子どもの対人関係能力を育てる」津村俊充著 教育開発研究所
- 「エンカウンターで学級が変わる1～3」國分康孝著 図書文化